**ヨハネによる福音書　17章**

文責：古橋　大佑

# 【自身のための祈り】1-5

今まで弟子たちに向かって最後の説教をしていたイエスは、次に目を天に向けて話し始めた。

**Ｑ1.3節「永遠の命とは、～イエスキリストを知ることです。」とありますが、**

**結局「永遠の命」とはなんなのか？**

**神の国で永遠に生きられることなのか？「知ること」それ自体なのか？それとも…？**

・【弟子たち、彼らのための祈り】6-26

そして祈りは、イエス自身のためのものから弟子たちのためのものへ移る。

**Ｑ2.繰り返しイエスの祈りの中で出てくる「彼ら」とは？**

**Ｑ3.なぜ「彼ら」だけが救われるのか。**

**・神を信じている者　∋　キリストを信じているものではない。**

**なぜ神を信じる方法が違うだけで救われるか否かが決まるのか。**

**・神の存在を知らない者もいる。**

**神の存在を知ったとしても、彼が神を信じるかどうかは環境によるものが大きいだろう。**

**その環境の差を作ったのは？**

**・愛の神であるならば全てを救うのが自然ではないか？**

**仮に、全ての人が神を信じ永遠の命を得る世界を作ることも不可能ではなかったのに**

**人が「神を信じるか信じないか」を選ぶ機会を作ったというのなら、**

**その機会を作ったものの責任として、選択がどうあれ救うのが愛ではないのか？**

**・そもそも、なぜ神は「神の存在を信じ、敬う者」だけを救うのか。**

**それは神の視点ではそこまで評価されるべきことなのか？**

**ＳＱ.あなたは神、あるいは世界をどのようなものと認識しているか。**